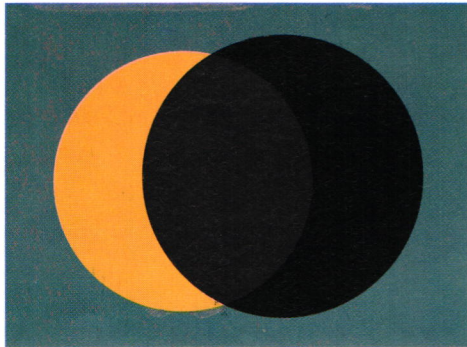


ふてしこ

11 '18
No.276

巡回通信誌



solar&lunar eclipsus

「月の暦：昼夜行路」

名誉院長 西 田 敬

仲秋の名月に肖って、癌細胞が間も変わらず、氷河期以前のエネルギー獲得手段である嫌気性解糖に拘っている旨を強調してきたが、他人様の事は云えぬ。ヒトの体内時計も依然として太陰暦を引摺っている分野がある。例えば、生殖機能は太陽暦を拒否して太陰暦に従う。これ許は Galileo Galilei (1564-1642) が幾ら頑張っても詮無い事。妊娠期間は月齢で 9 lunar months (166 lunar days) だし、月経 (menstruation) 期間も同じく、7 月齢日 (seven lunar days : a lunar day = 24hours+50minutes) に決まって居る。詩人、

萩原朔太郎が一日生まれの総領息子であった事を名前が物語るが如し。また先般、「告朔の餼羊」についても紹介したように、縁起が悪かろう筈もない名前である。茲で太陽暦と太陰暦について再考。Solar time と Lunar time。月と太陽の対比なんぞ、如何にも安直な人間共が思い付きそうな、小賢しい浅知恵。暇さえあれば、何時も宇宙に思いを馳せていた Einstein 博士が聞けば、「未だソナ事をわすらをかたまげたまがへそ思い煩って居るの乎！魂消て、舉拳って、臍が茶を沸かして、啮い転げるじゃろう。

似たような表現だが魂消たは失神に繋がり、舉拳ったは拳舉筋反射に繋がる、理の道理として、努、女性が使う可き表現ではない。大見えを切ったようなタイトルにしては、尻切れ蜻蛉。聊か安直な幕切れで、忸怩たる思いを免れぬ。年末が近づけば厭でも来年の御屠蘇の出来が気に掛るのが呑ん兵衛の宿命。気も漫ろな一遍、清濁、併せ吞まれよ。

